

## 1. 教育の責任

\* 国際看護学部の教育理念である多様性への理解と受容及び看護ができる看護教育の一翼を担っている。

## 2. 教育の理念

\* 革新的な方法による授業（講義・演習・実習）をプロデュースし、様々な場（療養場面、地域、国）で生活することもとその家族の将来性、多様性と普遍性を理解し、自らの実践を科学的根拠に基づいて実践できる看護学生を育てる。

\* こども目線からこどもの健康を第一に考える Children First のロールモデルとなる

\* 学生と教員が対等な立場で議論する。相手がだれであっても自分の考えを自信を持って発言する大切さを学生と共有する

\* ゴールを明示し、学生が失敗を恐れず挑戦する機会をつくる

\* 自分が影響を与える存在であることを自覚し、プロフェッショナルとして責任を持って行動できるようにサポートする

\* 小児看護学の革命児になる：自らの小児看護教育を内省し、革新的な教育方法を導入することで、学生にとって効果的な授業を展開する

## 3. 教育の方法

### \* 教育の目的と目標

講義では、看護学はあくまで実践学であり、自身の臨地経験と形式的な知識を結びつける、すなわち、経験と知識で双方に裏付けを行う講義を展開する。演習では、講義で得た知識を活用して、こどもへの看護を考え実践する形式としている。そして、実習では、講義、演習を学修したことの集大成として、実際のこどもへの看護過程や小児看護技術の実践のリアルを体験し、その内容と方法について、成人看護と比較しながら学修する。

このように、講義・演習・実習のシームレスな学びの積み上げを意識した教育を目指している。例えば、「小児看護援助論Ⅱ」では、様々な健康問題や障がいをもつこどもと家族が、自らの力で健康状態、QOL や Well-Being を維持・向上していくために必要な小児看護実践の知識とそのプロセスを習得する。また、そのようなこどもに対するヘルスアセスメントや日常生活援助技術、症状緩和技術を実践できる能力を習得する。様々な場（保育園や病院）におけるこどもの生活環境の特徴について理解し、安全かつ安楽な環境を整えるための看護実践について習得することを目的としている。また、看護研究では、学生の関心のある看護現象を探求し、論理的にその現象を記述し説明できる研究方法の習得を目的としている。

### \* 教育実践

#### ① 実践ベースの知識教授

講義では、逆算的に、臨地における看護や実習において、実践に直接的に必要なであろう事象について、最低限のことを優先的に教授する。

#### ② 主体的な学びを促進する工夫

演習では、「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ」および「小児看護援助論Ⅱ（実習前）」で習得する知識を活用して、事例を用いた協同学習（個人ワークおよびグループワーク、ジグソー学習法）によって、こどもと家族のアセスメントを行い、健康問題や障がいをもつこどもと家族への支援計画ならびに看護実践を考察する。また、ロールプレイを通して、「小児看護援助論Ⅰ」で習得したヘルスアセスメント技術を応用した知識・技術、小児看護場面における医療英語、多言語問診票の利用した問診を理解する。さらに、実習施設におけるフィールドワーク①（保育園における環境観察等）および、フィールドワーク②（病院における環境観察等）を通して、「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ」で学んだ知識・技術の形式知と臨地での実践知を融合するため、発達段階に応じたこどもの特徴とその安全な環境について考察し、こどもや家族の受診環境のユニバーサルデザインについて考察する。また、看護研究では、与えられた課題だけに取り組むのではなく、自身で調べてまとめ理解し他者に説明（プレゼンテーション）し質疑応答する機会を意図的に設定する。

\* 教育実践のつづき

- ③ 学生が安心できる環境づくりのための工夫
  1. 課題の伝達を文章および、視覚的に伝える
  2. 講義時間を構造化する（いつも同じ流れで進行する）
  3. 開始と終了時間を厳守する
  4. 個人ワークに加えて、ペアワークやグループワークを取り入れて相互の教授内容の質を保障する
- ④ 総合的な学習成果達成のための工夫
  1. プレゼンテーションやレポートにはルーブリック評価を提示し、到達点を明示する。
  2. 講義毎回の学生が el-Campus に記載したコメントには、1 週間以内にコメントを返す。
  3. レポート、プレゼンテーションなどエフォートがかかる課題は、講義ごとに、提出日、課題の内容、コツ等を伝える
- ⑤ 各単元で何を学んでいるのかを明確にする工夫
  1. 講義最後 10 分間は当該講義の振り返りの時間とし、自分の学びを省察する時間をとる

#### 4. 教育の成果

(1) 授業見学・授業アンケート等の内部評価

1. 学生の毎回の講義の振り返りコメント

- ・実際の看護経験を講義で聞くと、対象の子どもや家族の辛い体験がよく理解できた
  - ・一人で看護過程の課題に取り組むと不安なことでも、グループメンバーで共同学習して協働することで自分の考えが間違っていないこと、異なっても方向性を修正できてよかった
  - ・グループの中で、自分の役割を実行しないと目標が達成できないし、メンバーに迷惑をかけるので主体的に行動できた
- 講義・演習の内容を、グループメンバーで共有しながら協働することの利点について考え主体的に行動できていた。

2. 小児看護学実習および統合看護学実習での学生の発言（アウトプット）

- ・小児看護では、子どもの成長・発達をアセスメントすることが個別性のあるケアにつながる
- ・子どもの背景としての家族だけでなく、家族が苦悩を抱える存在として看護していく家族看護の視点を学べた
- ・子どもは全て手伝わなければならない存在という考えから、子ども自身でできることを考えて支援することを学べた
- ・乳幼児のような言語的コミュニケーションが難しい対象者とのコミュニケーション技術について学ぶことができた。
- ・小児の在宅医療において、その子の特徴を捉えた専門的なアドバイスを受けながら育児ができ、地域においても、多職種が関わり、地域で障がいをもつ子どもと家族が安心して子育てができると考えた。
- ・小児病棟における看護管理の視点から、子どもの安全や感染管理、ケアの優先度において、個々の患児の発達段階に応じた運動機能や認知機能等の発達を考慮した環境整備することが大原則になることを学んだ。

これまでの小児看護学科目で学習してきた、「成長発達する子ども」「自律性の尊重」「セルフケアの促進」「家族看護」など小児看護実践で重要な視点を臨地での経験を通して、学びとっている。

(2) 小児看護学領域 教員からのフィードバック

- ・週 1 回行っている領域ミーティングで毎講義の振り返りをしている（R ドライブ内の議事録）

#### 5. 改善への努力と今後の目標

【短期目標】

講義ごとの毎回の見直しを行い、各単元の修正および、科目全体の構成を行う。学生の動機づけをさらに強める工夫として、課題と

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：国際看護学部 名前：高谷 知史 作成日：2024年1月10日

到達目標や講義内容との関連を明確に説明する。領域内教員同士で常にフィードバック行う。

### 【長期目標】

現在実施中の小児看護学実習での学生の実践を通して、2年次－3年次秋学期に履修する科目の教育効果の評価を行う。具体的には、学生の記憶に残りやすかった知識とそうでなかった知識について抽出する。また、なぜ記憶に残りやすかったかについても聞き取り、理解を深めておいてほしかったが、記憶に残りにくかった内容について教授方法の修正を行う。

小児看護学領域の科目を通して、「こども看護のやりがい、特異性」「家族看護の重要性と必要性」「目標達成のために仲間と協働すること」「学ぶ楽しさ、充実感」を感じ学んでもらうことで、卒業後も、組織やチームの一員としての看護職ができることを考え、自分で学習していくことが楽しいと思えることを目指しているため、5－10年後に卒業生が、学習をそのような姿勢で継続できているかをかかわりながら、検証していく。

### 【添付資料】

- ・シラバス
- ・講義資料 PPT スライド、コースガイダンス、ルーブリック評価
- ・講義で作成した学生の予習ノートなどのワークシート、グループワークシートなど
- ・el-Campus に学生が入力した講義中のコメントおよび振り返り
- ・R ドライブ議事録（小児看護学領域 教員からのフィードバック）

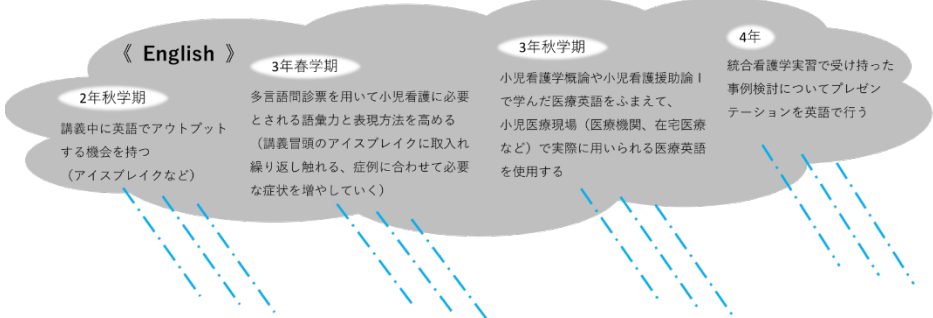
《MISSION》

小児看護学分野では革新的な方法による授業（講義・演習・実習）をプロデュースし、様々な場（療養場面、地域、国）で生活することもとその家族の将来性、多様性と普遍性を理解し、自らの実践を科学的根拠に基づいて実践できる看護学生を育てる



- 【国際看護学分野】
- 【基礎看護学分野】
- 【成人看護学分野】
- 【母性看護学分野】
- 【精神看護学分野】
- 【在宅看護学分野】
- 【老年看護学分野】

《English Cafe》  
《Medical English Cafe》



- ◆ 子ども目線から子どもの健康を第一に考えるChildren Firstのロールモデルとなる
- ◆ 学生と教員が対等な立場で議論する。相手がだれであっても自分の考えを自信を持って発言する大切さを学生と共有する
- ◆ ゴールを明示し、学生が失敗を恐れず挑戦する機会をつくる
- ◆ 自分が影響を与える存在であることを自覚し、プロフェッショナルとして責任を持って行動できるようにサポートする
- ◆ 小児看護学の革命児になる  
自らの小児看護教育を内省し、革新的な教育方法を導入することで、学生にとって効果的な授業を展開する

《 Education 》

《看護師国家試験》合格 《医療英語検定4級》取得

《 Education 》



《 Global 》

